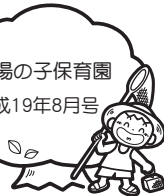




8月のえんだより

太陽の子保育園
平成19年8月号



今年は梅雨明けが遅く、7月は子どもたちが大好きなプール遊びもあまりできませんでした。でも、8月からはいよいよ「夏本番!!」…暑い日も続き、たくさん水あそびを楽しんでいけそうです。

お休み中の計画を立てている方も多いと思います。でも、何もしなくても…どこかに行かなくても…ほんのちよとした少しの工夫で、素敵な夏になるものです。いつもより、子どもたちに多く目を向けてあげてください。きっと、いつもと違った子どもの姿、そして自分の姿が発見できると思います。

また、夏の身体は、おとなも子ども、かなりの体力を消耗します。だからこそ、いつも以上に「食事・睡眠・休養」が大切になります。健康に留意して、楽しい夏にしてください。



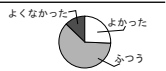
7月14日 SUNSUN まつり

雨の中にもかかわらず、多数の方がご参加いただき、本当にありがとうございました。

①SUNSUNまつりについて、お手紙やしおりなどの配布時期は適切でしたか?



②園舎内での実施はどうでしたか?



③雨天時の対応方法についてのお知らせはどうでしたか?



④当日の緊急連絡網は適切に回っていましたか?



⑤現在、連絡メールをメールでの一斉配信に切り替えていくことを検討していますがこれについてどう思いますか?



アンケートへのご協力ありがとうございました。

アンケート結果は只今、分析・検討中です。アンケートの最終集計・報告ができましたら、改めてご案内させていただきます。



- 2日(木) 避難訓練
- 8日(水) 幼児体育指導
- 20日(月) 身体測定の日
- 21日(火) グリーン東京訪問
- 23日(木) 誕生会
- 28日(火) 0歳児健診
- 30日(木) プール納め
- 31日(金) 避難引取り訓練

8月31日(金) 避難引取り訓練

急な地震・火災発生のため、園舎が危険と判断した時は、第2避難場所である「こんぴら山児童公園」へ避難します。8月31日に、こんぴら山児童公園まで避難し、そこで保護者の方への引渡しを行う訓練を実施いたします。引渡時間は午後4:30の予定です。ご協力の程、よろしくをお願いします。(詳しくは後日お知らせいたします。)

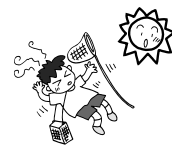
蚊対策



園では手作りの虫除けスプレーを使用しています。
・精製水 ・アルコール
・シモンガラス(天然植物精油)
⇒虫が嫌いな成分が入っています

夏は温度調整が難しい季節!!
暑すぎず、冷やしすぎず、
適切な温度管理が大切です

熱中症にご用心!!



いよいよ夏真っ盛り、暑い夏の日が始まります。子どもたちにとっても楽しい毎日となり、気分が乗ってくると「限界」を超えてもまだ頑張ってしまうね。

夢中で遊ぶ子どもは喉の渇きを訴えないことがありますから、ときどき涼しい場所で休ませて水分を補給させてあげるなど、周りの大人が十分に注意をしていく必要があります。

「熱中症」とは、高温な環境という直接的な原因と、そこに長時間いることで脱水症状を起こすなどの間接的な原因が絡み合って、体温のコントロールに影響を及ぼし、体調不良になることです。



エアコンの冷えすぎにも注意しましょう

子どもの体は、「皮下脂肪が少ない」「体重に比べて体表面積が広い」などおとなに比べて熱を失いやすくなっています。おとなの「気持ちいい」は、子どもにとって「冷えすぎ」である場合が多いものです。エアコンの温度設定は、「ちょっと涼しい程度」の設定とし、風向きは水平に、扇風機は壁や天井に向けて使しましょう。また、1日中エアコンを使わず、朝や夕方窓を開け放して自然な風も通すようにしましょう。

ドライ設定の場合も換気を忘れずに室内を冷やし過ぎずに快適さを保とうと、エアコンをドライ設定にしたり、除湿器を使うことも多いと思います。でも、空気が乾燥し過ぎてしまうのもよくありません。必ず2~3時間ごとに窓を開けて、空気の入替えをしましょう。

らいおんぐみ 運動会で着るTシャツの染物を実施します。

らいおんぐみで、運動会で着る無地Tシャツへの染物を実施します。今回はご希望の保護者の方の分も含めて子どもたちが作成します。(詳細は後日ご案内致します) ※園児分のTシャツは園負担で用意しますが、保護者分は各自ご負担頂きます。

症状が軽い場合だと、「だるい」「ぐったりする」ですが、症状が進むと高熱が出てけいれんを起こしたり、多臓器不全を起こすこともあります。決して軽く考えず、命にかかわる場合があるという認識が必要で。

予防策としては、高温になり得る場所に、親の目が届かない状態で子どもを放置しないこと。特に小さな子どもの場合は、外だけでなく室内も注意。エアコンへの過信も禁物です。また、外遊びでは適度な休憩を取らせ、冷たいタオルなどで体を冷やしたりしてあげましょう。

そして基本的なことは、十分な水分補

給です。汗を大量にかくことによる脱水症状が大きな影響を及ぼすので、特に赤ちゃんには飲みただけ飲ませてください。直射日光を避けるための帽子も有効です。これらの予防策は、子どもが自分で判断できませんので、おとなが直接働きかけましょう。

もしだるさなどの症状が出た場合は、まず体を冷やして水分補給してください。その後また元気に遊ぶようなら、様子を見てもいいでしょう。しかしそれでも元気が回復しない、高熱などの症状が出た時は、早急に医療機関へ連れて行ってください。

車中は10分程度で危険状態



JAF(日本自動車連盟)が実施したテストによると、外気温23℃・雨も降り比較的過ごしやすい天候の状態でも、自動車内のピーク温度は一部で70℃を超えるという驚きの結果が測定されました。もっとも高い温度となったのはダッシュボード付近で70.8℃で、もっとも低い車内温度でさえ48.7℃

を記録。一部缶入り炭酸飲料水は変形、破裂をした。専門家によると50℃近い気温は、赤ちゃんにとって非常に危険で、たった10分程度の短時間で重症疾患になる恐れもあるといえます。

窓を開けたり、冷房をかけていても、日光が照りかえしによって簡単に気温が上がり、たやすく35℃以上になります。あまり暑いと感じない日でも、子どもを車の中に置いたままにするのはたいへん危険ですので絶対にやめましょう。